

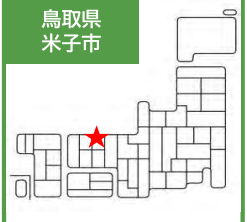
ノウフクアワード受賞者（水福連携）一覧

年度	賞	団体名	所在地
2024	チャレンジ賞	NPO法人ライヴ	鳥取県米子市
2023	優秀賞	有限会社F・F磯崎	宮城県松島町
2023	チャレンジ賞	一般社団法人 社会福祉支援協会	福岡県福岡市
2022	チャレンジ賞	三陸ラボラトリ株式会社	岩手県大船渡市
2021	チャレンジ賞	社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団	青森県平内町
2020	優秀賞	一般社団法人 松島のかぜ	宮城県松島町

地域の漁師と連携し日本海産の海藻・魚介類を乾燥加工して販売。作業請負から水産加工品製造・販売への転換で工賃向上を実現。製品化までの全工程に障害者が携わることで自身の充実感・達成感も向上。

福祉事業所

鳥取県
米子市



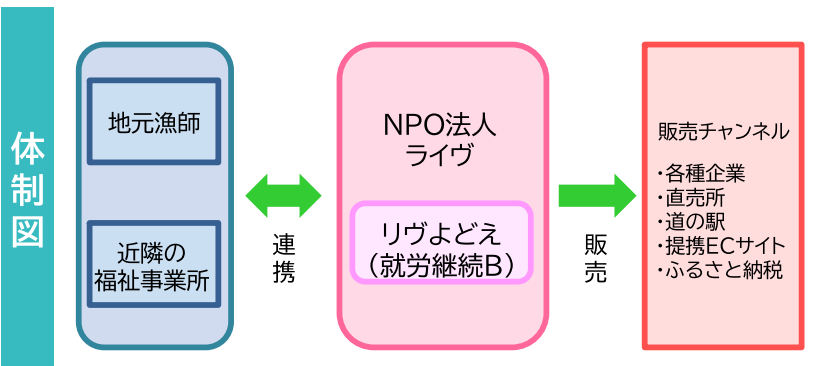
基本情報

設立:H23年/農福連携取組開始:H23年

概要

主力商品
(水産加工品)板わかめ、乾燥ひじき、乾燥ホタルイカ

特徴的な取組
水福連携



TEL:0859-56-5789/Mail:info@live-y.jp

URL:https://live-y.jp

きっかけ

H23年

利用者の能力を生かせる仕事がないかと探していた時、地元の漁業者からわかめ干し作業を手伝って欲しいと依頼があり海藻を乾燥加工する水福連携の活動を開始。

人を耕す

● 開始当初はわかめ干し作業の請負作業が売上の中心だったものを、自分たちで行う水産加工品の製造・販売にシフトすることで売上高が100倍以上に増加。

● 様々な決め事に際して職員が利用者に伝えるだけでなく、随時ミーティングを開き、今している作業は何のための作業なのかを説明してもらうことで自主性を育成。

地域を耕す

● 主力商品の「板わかめ」は山陰地方の名産であるが、製造所が減少しており、地域の漁業者から製造方法を教えてもらうことで、地域の食文化の継承に寄与。

● 地域の漁協からの提案をきっかけに、地域で初めて採れるようになったひじきを原料にした新商品「乾燥ひじき」を開発し、販売を開始するなど地域水産業の維持に貢献。

未来を耕す

● 添加物を一切使用せず、素材の風味を大切に商品づくりを実施。

● 新設した水産加工施設では、他の福祉事業所の利用者に、水産加工作業の一部を委託することで、連携する事業所数を増やし、水福連携の輪を拡大。

取組

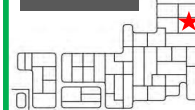
平均工賃月額	水産加工に関わる障害者数	売上高	—
15,700円(H23) →29,054円(R5)	6人(H23) →23人(R5)	8万円(H23) →851万円(R5)	

成果

● 職員のサポートなしで完全に製造を任せることのできる利用者もあり、県平均を大きく上回る月5万円以上の工賃を実現。

● 地域の奉仕作業への参加や、特別支援学校や中学校等の職業体験の受入れ等により、地域との交流や活性化に寄与。

● 水福連携の取組が地域の新聞やニュースで掲載。



地域の就労継続支援A型事業所と連携することで、障害者が地域と繋がりをもって働ける場を創出するとともに、安定した作業賃金確保や、一般就労への移行を支援しており、様々な地域活動にも参画することで地域の活性化にも寄与。

基本情報

- 所在地：宮城県松島町
- 団体名：有限会社 F・F磯崎
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023 優秀賞
- 主力商品：生かき、水稻、さつまいも、かぼちゃ、トマト、きゅうり、なす、玉ねぎ 等
- 取得認証等：認定農業者



生かき



露地野菜ほ場

取組の概要

- 半農半漁が生業の松島町磯崎地区において、就労継続支援A型事業所「松島のかぜ」から約20名の利用者を受け入れ、約60haの農地で水稻やさつまいもの栽培、牡蠣養殖を実施。
- 地域の農協、漁協、中小企業からの委託業務を請け負い、「松島のかぜ」の利用者と受託先の従業員の協同作業などを実施している。
- 農産物の加工施設と利用者の休憩場を併せて整備し、農産物の付加価値向上と作業環境の改善を実施。
- 地域活動にも積極的に参加しており、酒屋・酒蔵・8つの旅館と連携した「特別純米酒いやすこ」の共同生産活動では、原料の「ひとめぼれ」を減農薬栽培し提供している。



畑の除草作業



整備した加工場



生かきの共同むき身作業



酒造りプロジェクト

体制図

農業法人
有限会社 F・F磯崎

連携

一般社団法人 松島のかぜ
(A型事業所)

企画運営班
(企画、運営、事務処理 等)

水田農業班
(水田農業の指導、管理 等)

畑作農業班
(畑作農業の指導、管理 等)

農産加工班
(農産物加工の指導、管理 等)



取組の成果

- 利用者が地域で働く環境を創出することで、農業・漁業の担い手確保及び経営の安定化に貢献し、地域産業の衰退の歯止めとなっている。
- 海上作業には手当を支給するなど、安定した作業賃金確保に努め、F・F磯崎から利用者に対し、月額平均4～5万円の賃金を支払っている。
- 特別純米酒の共同生産が縁で、各旅館から米、野菜、生かき等の直接受注を受けるようになり、経営の安定化につながっている。

所在地 ▶ 宮城県宮城郡松島町磯崎字磯崎101

連絡先 ▶ TEL:022-355-1136 E-mail：－

ウェブサイト ▶ <https://ffisozaki.jimdofree.com>

【取組のプロセス】

平成25年

農福連携の取組開始

きっかけ

高齢化が進み著しく農家数が減少する中で、東日本大震災による離農の増加と地域内の労働力不足に対応するため、就労継続支援A型事業所「松島のかぜ」と連携し農福連携の取組を開始



整備されたほ場で作業する利用者

平成28年

復興基盤総合整備事業（H28～R2）

復興基盤整備を契機とした農福連携の取組拡大

- 平成28年度から令和2年度にかけて復興基盤整備事業の工事が実施され、地域内の震災で甚大な被害を受けた農地の大区画化と集積、集約が図られた。F・F磯崎は磯崎地区の大部分を耕作する地域の担い手となり、利用者の就業機会が拡大。



農産物加工の研修

令和2年

農山漁村振興交付金農福連携対策（R2～R3）

農山漁村振興交付金農福連携対策の活用

- 農福連携整備事業では、農産物加工場、休憩場所、トイレ等を整備し、利用者の就労環境が大幅に改善されるとともに、就労拡大も実現できる状態となった。
- 農福連携支援事業では、作業マニュアルの作成、農業生産・加工技術研修、先進地視察、地域交流会等を実施し、組織の一体感、生産活動への意欲が高まった。
- 様々な地域のイベントにも積極的に参加し、中心的な役割を担う。



加工場とかぼちゃのペースト

令和5年

農福連携によるさつまいも、とうもろこしの本格栽培、加工開始

取組の継続と発展

- 就労継続支援A型事業所利用者からの受け入れ人数は令和元年の15人から令和4年には22人に増加。利用者はこの期間に8名が一般就労に移行。
- 加工施設では、かぼちゃやさつまいものペーストを試作し、近隣の飲食施設等へ提供しており、今後は牡蠣やさつまいもなど加工品の商品化等も視野に取組の拡大を図る。



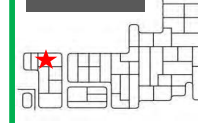
地域イベントへの参加

今後の展望

経営の安定と障害者の就労機会の確保を目指して

- 農産物加工品の開発、販路開拓等を進めて経営の安定を図り、最低賃金としていた障害者の賃金の更なる賃上げを目指す。
- 地域交流イベント等に積極的に参加し、障害者の地域との繋がりを創出するとともに、磯崎地区の活性化に寄与する。

更新年度：R5



障害者福祉事業を行う中で、障害者を企業の戦力として定着させたいという理念のもと、慢性的な人手不足に陥っていた水産加工会社を事業承継し、人手不足解消と障害者が戦力として定着する新たな分野を創出。

基本情報

- 所在地：福岡県福岡市
- 団体名：一般社団法人 社会福祉支援協会
- 選定表彰：令和2年 福岡市環境行動奨励賞（福岡市）
ノウフク・アワード2023
チャレンジ賞
- 主力商品：冷凍魚切り身（調理前）、冷凍魚フライ（調理前）、冷凍焼き魚（調理済）
- 取得認証等：有機JAS、ISO22000



冷凍魚切り身（調理前） 冷凍魚フライ（調理前） 冷凍焼き魚（調理済）

取組の概要

- 障害者の作業を箱折り等の軽作業から徐々に切身の加工など専門業務にスキルアップしていく仕組みを作るとともに、評価シートの導入でモチベーションアップを図り、7名の直接雇用（一般就労）を実現。
- 障害者の声に応え、作業場隣接エリアに休憩場を設けるなど就業環境の改善を図るとともに、分かり易い指示・手順（図や写真の掲示）を作成・活用し、職場に浸透しており、顧客からのクレームが年間比12%減少。



一般就労者への
技術継承



指示・手順掲示
（ローラー掛け、異物確認）



商品パック詰め作業の様子



福祉事業所・企業からの視察
（工場）の様子

体制図



- ・ 日々の施設外就労（利用者30～35名）
- ・ 施設外からの一般就労
- ・ 障害特性についての研修会

- ・ A型事業所売上に繋がる商品卸
- ・ 施設外就労の受入
- ・ 一般就労（雇用）の受入



就労継続支援A型事業所／5ヶ所
就労移行支援事業所／1ヶ所
共同生活援助／2ヶ所
通信制高校／1ヶ所

取組の成果

- グループ内障害者施設との連携により水産加工会社の人手不足が解消
- 障害の特性に合わせた作業分担を行うことで、離職が激減。
- 正確な切り身加工等の専門的業務において生産量／日が30%アップし、品質も向上。

	令和3年	令和5年 （見込み）
・ 施設外就労年間延人数（人）	1,966	2,060
・ 一般就労者数（水産加工）（人）	1	7
・ 施設外就労売上（水産加工）（円）	9,106,757	24,891,483

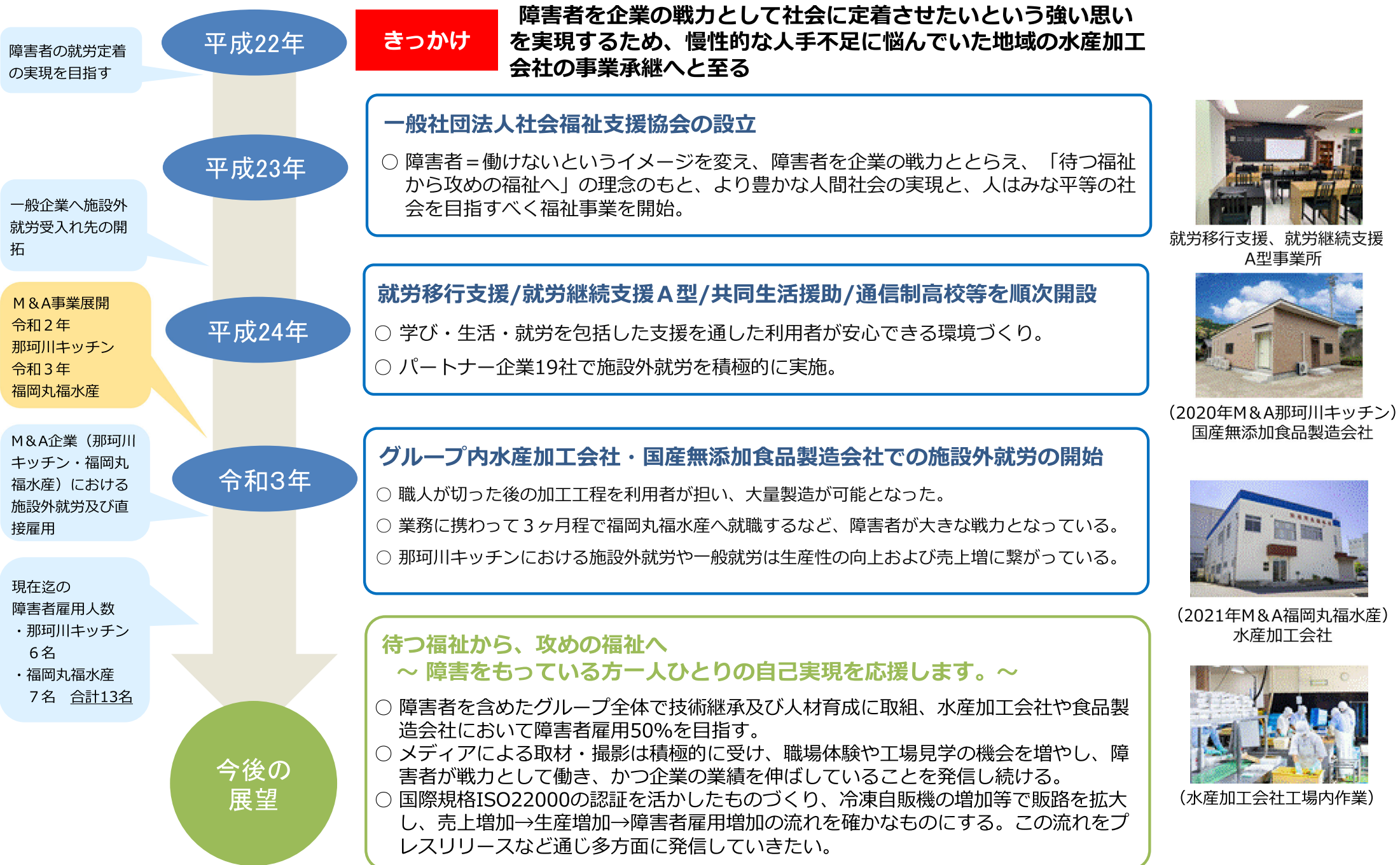
所在地 ▶ 福岡県福岡市博多区博多駅前2-17-25博多クリエイティブビル5F

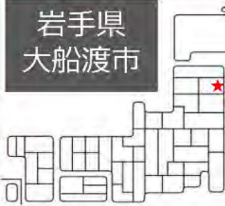
連絡先 ▶ TEL:0120-888-545

E-mail: kanri@be-smile.net

ウェブサイト ▶ <https://b-continue.co.jp>

【取組のプロセス】





水産物の製造販売を実施している中で、それまで廃棄されていたホヤを障害者が加工することで商品化を実現。ホヤ以外の加工にもチャレンジするなど、障害者の活躍の場の創出や工賃向上に寄与しつつ、水産業及び福祉の課題解決に包括的に取り組む。

基本情報

- 所在地：岩手県大船渡市
- 団体名：三陸ラボラトリ株式会社
- 選定表彰：
 - ・ 令和2年：はなまき青年商工会議所主催
SDGsアワード未来アイデア賞
 - ・ 令和2年：大船渡市ビジネスプラン
コンテスト 奨励賞
 - ・ 令和4年：ノウフク・アワード2022
チャレンジ賞
- 主力商品：むきホヤ、塩水ウニ、わかめ
- 取得認証等：－

取組の概要

- これまで廃棄されていた水産物等を買取り、障害者が加工して販売。商品のパッケージには障害のある作家の作品を利用。障害者の活躍の場を作り、工賃向上に取り組む。
- 雇用を1つ目のゴールと捉え、雇用を前提とした実習やトライアル雇用制度を活用して障害者にチャレンジする機会を提供。
- カキ、ウニ、ホタテ等も取り扱い、環境問題や再利用課題の解決に取り組む。



ホヤの殻むき作業



丁寧に内蔵を取る作業

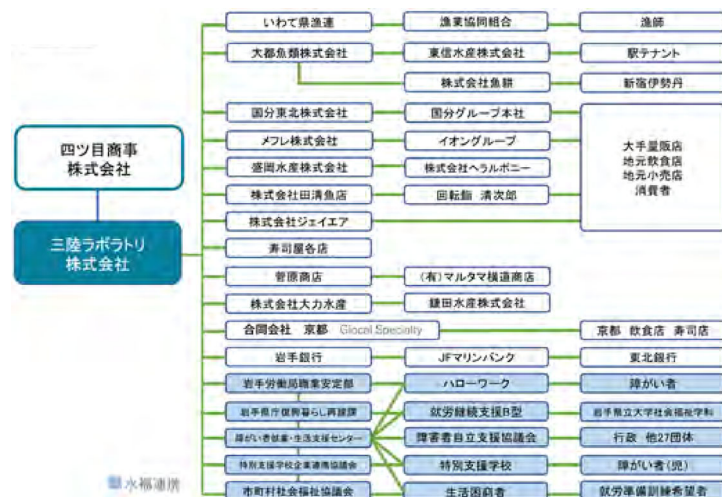


通販商品の様子



店頭に並ぶ商品

体制図



取組の成果

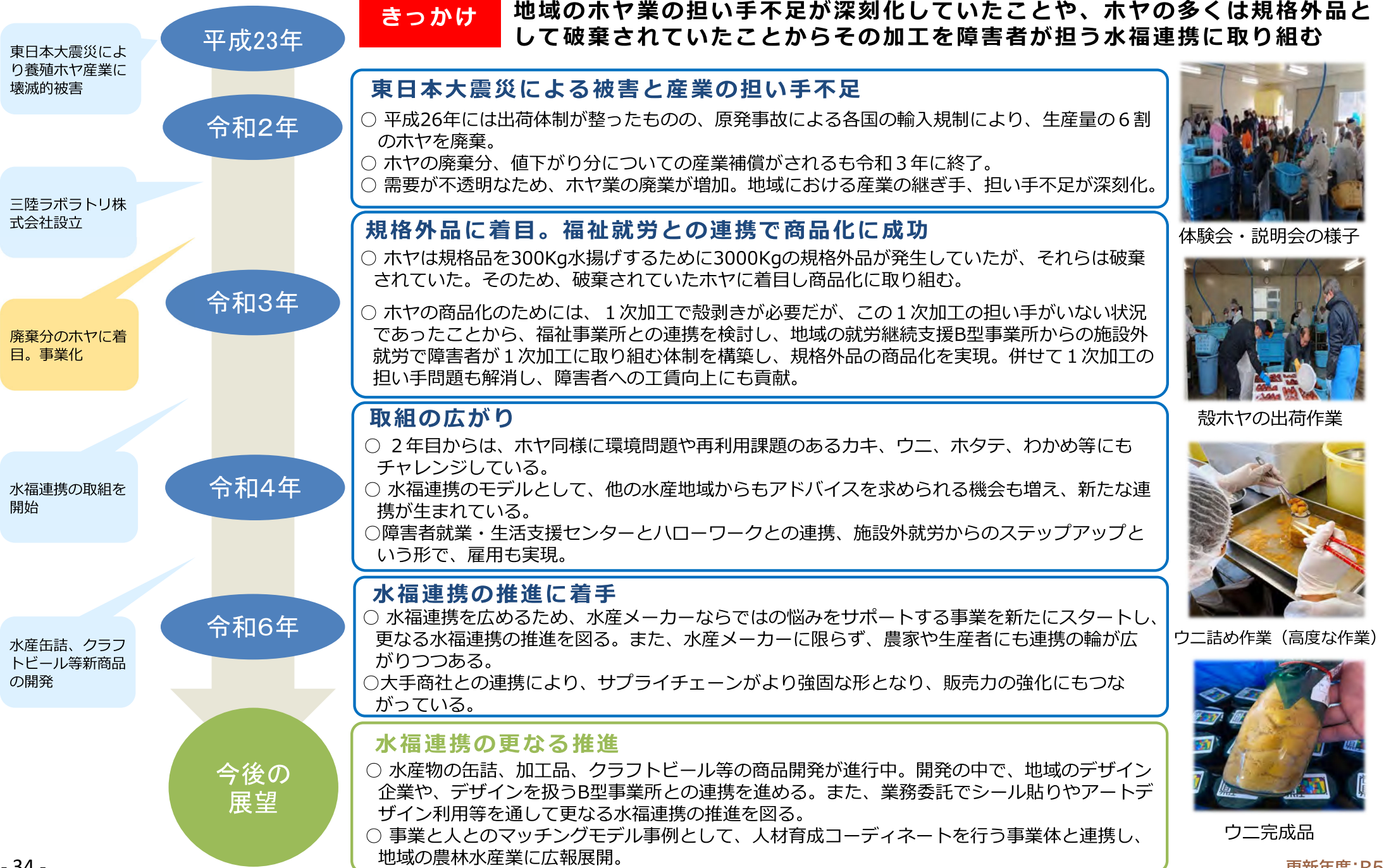
- 令和5年現在、障害者6名を雇用し、16名を施設外就労で受け入れ。
- 他漁協の規格外品も請け負うことで流通量が拡大、新たな産業モデルの可能性を圏域に提示することに成功。
- 売上は、取組当初（令和2年度）の446万円から、令和4年度には4,081万円に増加。
- 8～9割の作業を障害者が実施しており、障害者は地域にとって重要な担い手となっている。
- 水福連携のモデルとして、他の水産地域からアドバイスを求められる機会が増え、新たな連携が生まれている。

所在地 ▶ 岩手県大船渡市三陸町綾里港62-1

連絡先 ▶ TEL：0198-22-5149 E-mail：yotsume0925@outlook.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.yotsume-holdings.com/>

【取組のプロセス】





農作業(稲作)や木材加工、漁具の修繕など、農福・林福・水福連携に取り組み、県平均を上回る工賃を実現。

基本情報

- 所在地：青森県平内町
- 団体名：社会福祉法人
青森県すこやか福祉事業団
就労サポートセンターさつき
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品等：米、もち米、木材加工、
漁具補修
- 取得認証



就労サポートセンターさつき（就労
継続支援A型、B型、就労移行支援）

取組の概要

- 平成23年に10年以上休耕地となっていた水田の貸借契約を進め、利用者の就労の場の安定化や工賃向上を目指し水稻栽培事業を開始。
- 周辺地域の遊休林や敷地内外の伐採依頼を請け負うことにより、景観の保持や地域住民との信頼関係の構築につながっていると同時に、安定した作業と工賃確保の為、近隣の薪ストーブ販売店と提携し、薪材生産を実施。
- 漁業が地域における生活の要となっているが、高齢化や後継者不足による身体的負担が課題となっていた為、漁具修繕等の軽作業を請負う事で漁師の負担軽減と障害者の就労機会の確保を実現。



地域就農経験者を交えた農作業



遊休林伐採依頼の請負



ほたて漁具の修繕作業

体制図

青森県すこやか
福祉事業団

就労サポートセンターさつき

(株) 城ヶ丘観光

(株) 魚国総本社

(株) ぐるめ

薪ストーブwood rack

平内町漁業協同組合

A & Tひらないアグリ

取組の成果

- 地域の水田の90%以上を借入れ、事業所が地域農業の担い手となっている。
- 農作業に関わる障害者数は、取組当初の4名(平成24年)から21名(令和5年)に増加。
- 平均工賃月額は取組当初の14千円(平成24年)から29千円(令和5年)に上昇。

所在地 ▶ 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字向田24

連絡先 ▶ TEL:017-755-5113 E-mail:saposeen03@syuusapo.com

ウェブサイト ▶ www.syuusapo.com

【取組のプロセス】

法人の設立

昭和51年

きっかけ

地域の水田が10年以上休耕地となっており、景観保持の観点から稲作の再開を望む声が多くあげられていたことから農福連携の取組を開始

水稻栽培の開始

平成23年

水稻栽培の開始〈平成23年4月〉

- 農業委員会、地権者との相談を重ねながら荒廃農地の貸借契約を進め「障害者総合福祉センターなつどもり_林産班事業」として水稻栽培を開始。

平成24年

漁具修繕等による漁具加工作業を開始〈平成24年4月〉

- 地域の漁業者及び漁業資材加工業者より漁具加工作業の請負を開始。

旧平内町立茂浦小学校校舎を借入れ「就労サポートセンターさつき」を開設

就労サポートセンターさつきを開設〈同年8月〉

- 就労サポートセンターさつき(就労移行支援・就労継続支援B型事業)を開設。
- 水稻栽培事業を引継ぎ、農業を開始。
- 就業継続支援A型事業を開設〈平成27年4月〉(令和5年3月廃止)。
- 収穫期には地域住民を招待しながら大収穫祭を実施し、利用者と地域住民の交流を図る。
- 漁具修繕の請負や地域内海水浴場の清掃を続けることで、地元の漁師と利用者との関わりが多く持たれるように工夫。

水稻栽培を引継ぐ

令和元年

薪材の生産・販売を開始〈令和元年12月〉

- 青森県農福連携マルシェに参加し、利用者と共に生産した米と薪材を一般向けに販売



農福販売イベントでの薪材の販売

薪材生産・販売を開始

令和5年

施設外就労開始〈令和5年8月〉

- 地元企業「A&Tひらないうぐり」から「青森きくらげ」生産行程の一部を請負い、農連携技術支援者育成研修を受講した職員の支援のもと、障害者が地域産業の担い手となっている。

今後の展望

障害者の「働きたい」を積極支援

- 豊かな自然の下、地域の伝統や産業と協調しながら地域活性化に貢献する事を目標として一丸となって取り組む。
- これからも変化には変化で対応し、小さな発想を大きく議論し合いながら全員が成長し、障害者の「働きたい」を積極的に支援。



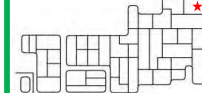
収穫米を使用した地域との交流(大収穫祭)



地域の海岸清掃



売れる喜びが作る喜びに



地域の農業法人と連携し、障害者一人一人に合った農業・漁業の就労機会を提供することによって、障害者が地域産業の重要な担い手として定着。

基本情報

- 所在地：宮城県松島町
- 団体名：一般社団法人松島のかぜ
- 選定表彰：ノウフク・アワード2020
優秀賞
- 主力商品：生かき、水稻、さつまいも、かぼちゃ、トマト、きゅうり、なす、玉ねぎ 等
- 取得認証等：－



取組の概要

- 「一般社団法人松島のかぜ」は、就労継続支援A型事業所として、障害者が自立した社会生活を営むことが出来るように、一般就労に必要な知識や能力向上に必要な訓練を適正かつ効果的に行い、主に農業・漁業を通じた就労の機会を提供。
- 現在、身体・知的・精神障害を持つ17名（定員20名）は有限会社F・F磯崎が経営する農地（60ha）と牡蠣養殖場（むき身10tを生産）で就労。地域のベテラン農業者なども参加して障害者と共に農作業等を行っており、地域産業の重要な担い手として定着。
- 宮城県庁での産直販売会では、障害者が自ら育てた米や野菜、生牡蠣を対面販売するほか、地域のJ Aや漁協のイベントでの出店では、牡蠣ご飯や焼きハゼなどの調理販売も行う。



田植えの苗補給作業



きゅうりの袋詰め作業



農作業のあと、地域の方々と記念写真

体制図

一般社団法人
松島のかぜ

連携

有限会社
F・F磯崎

業務委託

地域の中小企業、
団体など



取組の成果

- 利用者が安定的な就労者となることで、地域の農業と漁業の産出額は震災以前のレベルに回復し、その再生に大きく貢献。
- 農業漁業の他に配達作業などを通じて接客術も学んでおり、これまでに14名が一般就労に移行。
- 農業・漁業の年間を通じた作業により、1日4時間勤務ながら利用者は安定した賃金（月額7～8万円）を得ている。

所在地 ▶ 宮城県宮城郡松島町磯崎字釜12

連絡先 ▶ TEL：022-352-3256 E-mail：matushimanokaze@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://matsushimanokaze.com>

【取組のプロセス】

震災により、離農が続出し、半農半漁を生業としていた磯崎集落は、極端な労働力不足

平成25年

きっかけ

震災後の農漁業復興のため、松島町と宮城県の指導を受けて設立

就労継続支援A型事業所として漁業法人に労力提供開始

- 東日本大震災により松島町内で働く障害者のほとんどが失業したこと、また震災をきっかけとした離農と労働力不足が背景となり、松島町と宮城県の指導を得て就労継続支援A型事業所として平成25年8月1日に設立し、利用者は農業法人である有限会社F・F磯崎が経営する農地や牡蠣養殖場で就労。



宮城県庁での産直販売

平成29年

優良な職業訓練の場として町内外に広く認知されている

一般就労への移行者、1人目が誕生

- 就労に必要な知識や能力向上に必要な訓練を適正かつ効果的に行い、一般就労への移行に向けて支援を実施した結果、平成29年4月に1名が一般就労に移行。
- また、近隣の閉鎖される就労継続支援A型事業所から5名を受け入れ。



ひとめぼれの精米袋詰め作業

令和5年

一般就労への移行者、14人目を達成

- 就労継続支援A型事業所を設立して10年が経過し、利用者は農業漁業の作業技術だけでなく、産直販売会やイベント出店、ホテル・旅館・飲食店への配達作業などを通じて接客も学んでいる。これまで14名を一般就労に送り出しており、優良な職業訓練の場として町内外に広く認知されている。



青森県への1泊研修旅行

今後の展望

安心して楽しく健康的に働ける最高の環境作りに注力

- 農業と漁業のそれぞれの分野で年間を通して様々な仕事があるので、障害者の一人一人に合った仕事を提案している。
- 自分たちが作ったものがたくさんの人たちの食卓にならび、体をつくり、笑顔や命を支えているつながりを感じることができる。
- 連携しているF・F磯崎と共に、地域交流イベントに出店販売等で参加し、地域活性化に大きく貢献している。



仲間と働く感想を語る利用者